

地球惑星科学委員会 IUGG 分科会（第 23 期・第 4 回）議事録

日 時：平成 29 年 6 月 27 日（火）10：00～11：40

場 所：日本学術会議 6 階 6-A(1)会議室

出席者：佐竹健治、中田節也、中村卓司、中村 尚*、中村正人、西村浩一*、
日置幸介*、山形俊男（*Skype 参加）

欠席：窪田順平、小池俊雄

オブザーバー：田中 聡、日比谷紀之、

事務局：駒木大輔（日本学術会議事務局）

（配布資料）

資料 1 前回議事録案

資料 2-1 Administration of the IUGG

資料 2-2 Past officers of the Financial Committee

資料 2-3 List of past and present members of the IUGG Bureau and
Finance Committee

資料 2-4 IUGG budget 2016-2019

資料 2-5 IUGG: Result of the vote on the appointment of Prof. A Ashour
to the IUGG Finance Committee for the period 2017-2019

資料 3-1 第 23 期 IUGG 分科会活動報告

資料 3-2 IUGG Statement: The Earth's climate and responsibilities of
scientists and their governments to promote sustainable development.

資料 4-1 IACS 幹事会報告

資料 4-2 IAG 小委員会報告

資料 4-3 IAMAS 小委員会報告

資料 4-4 IASPEI 小委員会報告

資料 4-5 IAVCEI 小委員会報告

資料 4-6 IAHS 小委員会報告

資料 4-7 IAPSO 小委員会報告

議題等

1. 前回議事録（案）の確認

前回（第 23 期第 4 回）議事録（資料 1）を承認した。

2. IUGG と地球惑星科学委員会の動向

・中田委員長から IUGG Bureau と Finance Committee の歴代役員、及び、現在の財政状況、及び日本の分担金について紹介があった（資料 2-1～資料 2-5）。また、Finance Committee 委員の補充に関して日本から賛成票を投じたことや、米国政府のパリ協定から離脱表明に関して、IUGG が 6 月 12 日に出した Statement（資料 3-2）についても紹介があった。

後者に関して、Green Climate Fund の財源を日本が米国に次いで拠出しており、日本の外務省や研究者側の発言力をもっと高める方策を考えるのが望ましいとの意見が出された。

・前回の地球惑星科学委員会（2016 年 12 月 26）で議論された、（1）大型研究計画マスタープランが 2 月 8 日に「第 23 期学術大型研究計画に関するマスタープラン」として科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会から提言されたこと、（2）安全保障技術研究推進制度に関して、4 月 13 日に「軍事的安全保障研究について」として安全保障と学術に関する検討委員会から報告されたこと、及び、後者に関して、5 月 20 日に地球惑星科学連合大会のユニオンセッション「地球惑星科学の進むべき道 7：防衛装備庁安全保障技術研究制度」において議論されたことが中田委員長から報告された。

3. 第 23 期の IUGG 分科会の活動のまとめ

資料 3-1 に基づき、今期の IUGG 分科会の活動のまとめが中田委員長から紹介された。今期の代表派遣では IAMAS から申請があり承認されたので、今後は IAHS-IAGA-IACS-IAPSO-IASPEI-IAG-IAVCEI-IAMAS の順になる。

4. 各小委員会からの報告事項（資料 4-1～4-7）

・IACS 小委員会の活動に関連して、本年 2 月 22 日にニュージーランドのクライストチャーチで開催された IACS 幹事会の概要について西村委員から報告があった。主な内容は、IACS 会長が C. Fierz から R. Hock に変わったこと、傘下のワーキンググループの活動紹介、さらには IACS の前身である国際雪氷協会設立 125 周年の記念行事の検討である。また、広報活動の一環と

して4月に富山で開催されたASSW（北極科学サミット週間）用に作成されたPPTの紹介があった。

・IAG小委員会の活動に関して日置幹事から報告があった。今期の小委員会の活動概要と主な出来事として、IAG-IASPEI 2017の神戸誘致、2015年IUGG総会における東大田中愛幸氏のBomford賞受賞、Commission 3総裁に京大橋本学教授が選ばれたこと等がある。また、世界測地基準座標系GGRFに関する国連決議とIUGGの支持を受け、我が国でも持続可能な開発のためのGGRF実現に関する提言を2017年春に測地学会を通じて行ったこと、さらに、今夏のIAG-IASPEI 2017の評議会にて予定されている審議事項についての紹介があった。

・IAGA小委員会の活動に関して中村（正）委員から報告があった。5月の地球惑星科学連合大会時に小委員会を開催し情報共有及び意見を交換した。8月にケープタウンで開催されるIAGA学術総会には京都大学の家森氏にIAGA小委員会のdelegateとして出席していただくための推薦をした。

・IAHS小委員会の活動について、資料に基づき中田委員長が代読した。IAHS小委員会関連の4学会がHydrological Research Lettersを合同出版する準備会議において出版体制が確認され、準備委員会は運営委員会に移行した。7月に南アのポートエリザベスでIAHS学術総会が開催され、日本からの提案セッションもある。9月末に開催予定の小委員会で次期の体制について意見交換する。

・IAMAS小委員会の活動について中村（尚）幹事から報告があった。小委員会は気象学会春季・秋季大会時に開催してきており、IUGGやIAMASの総会時のセッション提案に関する議論、WCRP・Future Earthの動向に関する情報交換を行った。また、大型研究マスタープランへの対応や地球衛星観測に関する提言、原発事故時の予測情報の活かし方、軍事安全保障研究に関する学術会議声明への対応など、学術会議と気象学会の緊密な連携が必要な状況となったため、2017年以降は学会学術委員会との共同開催とした。なお、2017年南アでのIAMAS執行委員会にはIAMAS Secretary Generalである中島氏と中村幹事がdelegateとして参加予定である。

・IAPSO小委員会については、山形委員及び日比谷オブザーバーから、5月の地球惑星科学連合大会時に、小委員会の最近の活動報告ならびに今後の活動方針に関する意見交換を行ったことが報告された。また、8月27日～9月

1日に南アのケープタウンで開催される IAPSO-IAMAS-IAGA 合同学術総会で7件の IAPSO 関連セッション、8件の Joint Session が予定されていること、この会期中に行われる 2017 年度 Prince Albert I メダル受賞者として米国スクリプス海洋研究所の Lynne Talley 教授が選出されたこと、さらに、現在、IAPSO 執行委員会では SCOR Working Group 設置提案の推薦順位付けなどの作業や IAPSO 内での若手研究者ネットワークに関する議論を進めていることが報告された。

・ IASPEI 小委員会の活動について佐竹委員から報告があった。5月21日に小委員会を開催し、7月30日～8月4日に神戸で開催される IAG-IASPEI 学術総会の準備状況・IASPEI 小委員会としての対応などが話し合われた。IAG-IASPEI については、5月現在で約70か国から約1000名の登録があり、約1200件の発表（口頭発表900件・ポスター発表300件）が予定されている。学術総会に先立ち、7月30日（日）に市民公開講座「変動する地球を追い求めて一測地学・地震学の最前線」が開催される。学術総会期間中には多数のビジネスミーティングが開かれるが、IASPEI 小委員会のメンバーで分担して出席するようにした。

・ IAVCEI 小委員会の活動について中田委員長から報告があった。5月23日に小委員会を開催し、進行中の次世代火山研究・人材育成総合プロジェクトや地震火山噴火予知観測研究の次期建議の進捗状況のほか、日伊の火山学に関する共同研究協定、アジア火山コンソーシアム、SATREPS など国際共同研究について意見交換した。次期の IAVCEI 執行委員に日本人を送り込むことなどを戦略的に考えている。

5. 第24期の IUGG 分科会立ち上げと第23期からの申し送り事項

・ IUGG における日本の可視性に関して、IUGG Bureau や各 Association の役員候補として日本人を送り込むこと（前回議事録4.その他を参照）。また、IUGG と各 Association の各賞候補者の推薦が、次期 IUGG 分科会の前半の重要な任務であることを確認した。

・ 同様に前回の会議で「地球科学における Future Earth」などのシンポジウム企画の提案がなされたが、Future Earth は IUGG 以外のユニオンも多く、すでに関連シンポジウムが複数企画されている。そのため、Future Earth 関係のシンポジウムを企画するのであれば地球惑星科学委員会の他分科会とよ

く調整する必要がある。例えば、地球惑星科学委員会にどうしてこんなにユニオンが多い必要があるのかかが分かるもの、あるいは、(2) IUGG 自身の取り組みを紹介するものであっても良い。

- ・国内外で IUGG 分科会の活動の可視性を高めることが、学術会議において IUGG への分担金に関する継続審査の上で重要であることが確認された。シンポジウムを開催するのであれば、次期の 2 年目春頃に開催するのが好ましい。

以上のことを次期分科会で検討するように申し送ることにした。

6. その他

- ・次期の IUGG 分科会及び小委員会の設置に関して、以下のように世話人を決めた。中田 (IUGG 分科会、IAVCEI)、西村 (IACS)、日置 (IAG)、山崎俊嗣 (IAGA)、窪田 (IAHS)、中村尚 (IAMAS)、山形 (IAPSO)、佐竹 (IASPEI)。

- ・2021 年には、IASPEI と IAGA が学術総会の合同開催を、IAMAS は極地関係の学会と同時開催をそれぞれ検討しているとの情報がある。